



セネガル国月報

2017年3月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 7日、ハリファ・サル・ダカール市長は公金横領の容疑により、ダカール裁判所に召喚され、同日深夜、ダカール市のルブス刑務所に勾留された。
- 15日、サル大統領は第11回アフリカ教育開発連合(ADEA)総会を主催し、アジェンダ2063年の枠組みにおける持続可能な開発実現に向けた教育の質の必要性を訴えた。
- 内務省は、3月15日付の省令により、国民議会選挙における小選挙区の全105議席の割当の内訳を発表した。

外政

- 2日から4日にかけて、バロウ・ガンビア大統領はセネガルを訪問し、両国は、防衛及び安全保障協定の他、司法、森林監視、観光及び漁業に係る二国間協定を締結した。
- 18日、メズアール・モロッコ外相がモハメド六世モロッコ国王使節団としてセネガルを訪問し、サル大統領とモロッコのECOWAS加盟計画について会談を行った。

経済

- 7日、キヤノン北・中部アフリカ支店はセネガルにおける事業展開記念式典を開催した。
- 15日、バ経済・財政・計画大臣及びリスト・アフリカ開発銀行(AfDB)西アフリカ所長は、セネガル・モーリタニア間の橋梁建設計画(総額5,750億FCFA)に関わる2,670億FCFAの借款協定に署名した。
- 14日、中国道路建設会社グループ総裁はサル大統領に表敬を行い、同社が工事を請け負っているティエス・トゥーバ間を結ぶ高速道路「Illa Touba」の完成は2018年末となる予定であると述べた。

内政

1 サル大統領の地方訪問

- 5日から6日にかけて、サル大統領は、「セネガル新興計画(PSE)」の進捗状況の視察の一環で、ルーガ州、サンレイ州及びマタム州を訪問した(6日 Le Soleil)。
 - 5日、同大統領は国内10都市(ルーガ、マタム、ダカール、ルフィスク、ピキン、サンレイ、タンバクンダ、ティヴァワン、トゥーバ及びカオラック)における水・衛生計画を発表した。本計画は全人口の20%となる290万9千人に裨益し、総額708億FCFAが西アフリカ開発銀行(BOAD)のうち500億FCFAを支援する。
 - 5日、ルーガ州のグファット(Ngoufatt)において、サル大統領は、「緊急開発コミュニティ計画(PUDC)」の水利計画の第3フェーズとなる国内13州における251基の井戸の建設及び改修に係る水力計画の竣工式に出席した。
 - 5日、サル大統領はサンレイ州のレイバ(Laybar)で開催された給水塔(総額400億FCFA、貯蔵容量

1,500 立方メートル)の完成式典に出席し、2035 年に向けて、セネガル水道公社(SONES)は 2021 年までに 30 万立方メートル/日の給水を実現する予定であると発表した。また、サル大統領は、バルバリ地峡の保護を目的とした同地峡の沿岸地帯における防波堤の建設計画を公式に発表した。

2 公金横領の容疑に係わるダカール市長の勾留

- 7日、ハリファ・サル・ダカール市長他7名は公金横領の容疑により、ダカール裁判所に召喚された。同日深夜、同市長他5名は、公金横領、詐欺、資金洗浄及び組織犯罪の容疑により、ダカール市のルブス刑務所に勾留された(8日 L' Observateur)。
- 8日、ハリファ・サル・ダカール市長の刑務所への拘留を受け、国際フランス語圏市長協会(AIMF)は同協会の会長である同市長を支援する旨発表した。また、同協会はセネガル当局に対して、法治国家が認めた国際規定に従い、本件が取り扱われるよう訴えた(9日 Walf Quotidien)。
- 10日、ダカール市役所において、ハリファ・サル・ダカール市長支援派による集会が開催され、多数の野党党首が参加した(11日及び12日 L' Observateur)。

3 原子力安全保障の支援プランのレビュー会合

- 14日、2013年に制定された原子力安全保障の支援プランのレビュー会合が開催された。ファイ・セネガル放射線防御・核安全局局長は、同レビュー会合は、セネガル政府が、国際社会において近年高まりつつある核テロへの脅威に対応すべく開催したものであると述べた(16日 Le Soleil)。

4 交通安全強化政策

- 15日、インフラ・陸上運輸・交通整備省は、交通安全対策強化のため、2月に省庁間において閣議決定された10項目の道路交通法が適用された旨発表した。本法では、全車種に対して、過積載運転行為は情状酌量の対象外となること、また、都市交通機関及びタクシーの運転は25歳以上、都市間交通機関及び商用車の運転は30歳以上と年齢制限が設けられた他、二輪車のナンバープレートの装着等が義務付けられた(16日 Le Soleil)。

5 第11回アフリカ教育開発連合(ADEA)総会

- 15日、サル大統領は第11回アフリカ教育開発連合(ADEA)総会を主催し、アジェンダ2063年の枠組みにおける持続可能な開発実現に向けた教育の質の必要性を訴えた(17日 Le Soleil)。

6 新ティジャー教団総カリフの就任

- 15日、セリーニュ・シェーク・アフメット・ティジャー・シ・アル・マクトウム・ティジャー教団総カリフが他界し、17日、アブドゥ・アジズ・シ同教団スポークスマンが新総カリフに就任した。(20日 Le Soleil 他)。

7 国民議会議員選挙

- 内務省は、3月15日付の省令により、国民議会選挙における小選挙区の全105議席の割当の内訳を発表した。国内の地方別(90議席)の割当は、ダカール17議席、ジュールベル9議席、タンバクンダ7議席、カフリ

ン、ルーガ、サンルイ及びティエス 6 議席、ファティック、カオラック、コルダ、マタム、ジガンシヨール及びセディウ 5 議席、ケドゥグ 3 議席となった。ディアスポラ(15 議席)の割当は、アフリカ 7 議席、ヨーロッパ 6 議席、南米及びアジア中東が 1 議席となった(22 日 L' Observateur)。

外政

1 ガンビア大統領のセネガル訪問

- 2 日から 4 日にかけて、バロウ・ガンビア大統領はセネガルを訪問し、両国は、防衛及び安全保障協定及び司法、森林監視、観光並びに漁業に係る二国間協定を締結した他、セネガンビア橋梁及び税関の整備計画の早急な実行、空路及び海上交通における協力関係強化についても合意した。また、両大統領は二国間関係強化を目指し、大統領評議会を半年毎に両国間で相互開催することに合意した(6 日 Le Soleil 他)。

2 セネガル・モロッコ関係

- 18 日、メズアール・モロッコ外相がモハメド六世モロッコ国王使節団としてセネガルを訪問し、サル大統領とモロッコの ECOWAS 加盟計画について会談を行った(20 日 Le Soleil)。

3 サル大統領のスイス訪問

- 19 日、サル大統領はロイトハルト・スイス大統領(兼環境・運輸・エネルギー・通信相)、連邦外務相等と会談を行った他、スイスの国際オリンピック委員会(IOC)本部を訪問し、バッハIOC委員長に対して、IOCのセネガル事務所の開設を支援する旨約束した(21 日及び 24 日 Le Soleil)。

4 サル大統領のフランス訪問

- 22 日、サル大統領は、フランスに到着し、オランド仏大統領と会談を行った。オランド仏大統領はダカール・ブレーズ・ジャーニュ国際空港間の地域高速鉄道(TER)建設、ジャムニャジョの国立計算施設内のスーパーコンピューターの設置、ケ・ブランリ美術館及び黒人文明博物館のパートナーシップにおける仏の貢献を約束した(23 日及び 24 日 Le Soleil)。

5 サル大統領のコートジボワール訪問

- 27 日、サル大統領は仏を発ち、同日コートジボワールに到着した。28 日、サル大統領は、同地で開催された「アフリカ新興国会議」の開会式に出席した。(28 日 APS 通信他)。

経済

1 UN-OHRL 主催によるアフリカ諸国地域会合

- 2 月 29 日、ダカールにおいて UN-OHRL 主催により 2030 年アジェンダに向けたイスタンブール行動計画実施の促進に係るアフリカ諸国地域会合が開催された(1 日 APS 通信他)。

2 2017 年の UEMOA 域内の経済成長率予測

- 1 日、西アフリカ中央銀行(BCEAO)の金融政策委員会は 2017 年通常会合を開催し、第 1 四半期における経済情勢の主要発展の見直しを行い、2017 年は西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)域内の経済成長率は

7%との予測を発表した(2日 Le Soleil)。

3 ACAB 年間会合

- 9日, 経済・財政・計画省は「一般財政支援枠組み合意文書(ACAB)」に係る3次会合を開催した他, 2016年から2018年に実施されるACABⅢへの署名が行われた(10日 Le Soleil)。

4 SONACOS の民営化

- 9日, セネガル政府は, セネガル油脂販売公社(Société nationale de commercialisation des oléagineux du Sénégal: SONACOS)の民営化への第一歩として, 同社の予備調査の実施業者のための入札を行った(10日~12日 Le Temoin)。

5 キヤノンの事業展開記念式典

- 7日, ダカールにおいて, キヤノン北・中部アフリカ支店(CCNA)はセネガルにおける事業展開記念式典を開催した。今年中にセネガル初となる同社のカメラ及びビデオ機器のショールーム及びサービス・センターが開設される予定(9日付当 Seneweb 通信)。

6 「緊急コミュニティ開発計画(PUDC)」第2フェーズの開始

- 12日, ジョヌ首相は「緊急コミュニティ開発計画(PUDC)」第2フェーズが本年8月に開始する旨発表した(総額3,000億FCFA, うち600億FCFAは中国が支援)(13日 Le Soleil)。

7 セネガル・モーリタニア間の橋梁建設計画

- 15日, バ経済・財政・計画大臣及びリスト・アフリカ開発銀行(AfDB)西アフリカ所長は, セネガル・モーリタニア間の橋梁建設計画(総額5,750億FCFA)に関わる2,670億FCFAの借款協定に署名した。本橋梁はラゴス・ダカール・ヌアクショット・タンジェ・カイロ間を繋ぐトランス・アフリカ回廊の重要なリンクとなる(16日 Le Soleil)。

8 2015年の国際収支統計

- 14日, 経済・財政・計画省及び西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)が発表した2015年の国際収支統計によれば, 2015年の国際収支統計は1,605億FCFAの黒字となった。(14日 Le Soleil)。

9 中国道路建設会社グループ総裁のセネガル訪問

- 14日, Lu SHAN 中国道路建設会社(China Road and Bridge Corporation: CRBC)グループ総裁はサル大統領に表敬を行い, 同社が工事を請け負っているティエス・トゥーバ間を結ぶ高速道路「Illa Touba」の現在の完成率は45%であり, 2018年末に全工事が完成する予定であると述べた(15日 Le Soleil)。

10 ガス・石油関係

- 20日より, 石油及びガスの戦略方針委員会(COS-PETROGAZ)はイギリスを公式訪問し, 石油・ガス事業関係者等と交流を行う予定(20日 Le Soleil)。

- 25日、ファイ・セネガル国営石油会社(PETROSEN)総裁はアフリカ石油精製公社(Société Africaine de Raffinage: SAR)に次ぐ年間生産量6~7トン規模の石油の精製施設の建設の必要性を訴えた(27日 Le Soleil)。

11 セネガル・ガンビア間漁業協定

- 24日、ガンビアのバンジュールにおいてゲイ漁業・海洋経済大臣及びゴメス・ガンビア漁業大臣はガンビア・セネガル漁業・養殖協定に署名した(24日、25日及び26日 Le Soleil)。

12 IDBとの支援協定

- 24日、サウジアラビアにおいて、バ経済・財政・計画大臣及びハジャー・イスラム開発銀行(IDB)総裁はサヘルにおける農牧の持続可能な発展計画(支援総額180億FCFA)及びダカール・ブレーズ・ジャーニュ国際空港間の地域高速鉄道(TER)建設計画(支援総額1,970億FCFA)2案件の支援協定に署名を行った(25日及び26日 Le Soleil)。

13 ポドゥ港開校式

- 28日、サル大統領はルーガ県のポトゥ(Potou)港の開港式(総工事費4億3,900万FCFA)に出席した(29日 APS 通信他)。

14 第18回農産物・畜産物国際市(FIARA)

- 29日より4月16日までの期間、セネガル対外商業国際センター(CICES)において第18回農産物・畜産物国際市(FIARA)が開催される(28日 APS 通信)。

15 2016年銀行貸付残高及び銀行口座普及率

- 30日、BCEAO総裁は、国内における銀行の貸付残高は2015年に2兆9,920億FCFAだったところ、2016年には3兆3,470億FCFAへと12%増加した旨発表した。また、銀行口座普及率は1.4%となった旨発表した(31日 APS 通信)。

16 ECOWAS 域内フリー・ローミング開会式

- 30日、郵便・電気通信庁(ARTP)は「フリー・ローミング」の開会式を行った。本計画により、3月31日よりECOWAS加盟国内におけるフリー・ローミングが可能となる(31日 APS 通信)。

(注)「セネガル月報」は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)